

原因が特定できない 症状の正体は？

広島大学大学院 医系科学研究科
歯科麻酔学 助教 土井 充 先生



講演内容

- ✓ 不定愁訴とは？
- ✓ 「こころ」が悪くなると「からだ」も悪くなる？
- ✓ 歯科衛生士としてできる対応法は？

日時

LIVE配信

6/11 (水) 19:30 ▶ 21:00

オンデマンド配信

6月20日 (金) ~ 6月29日 (日)

開催方法

オンライン開催 (Zoom)

LIVE配信日の2日前までに、
ご登録のメールアドレスへ送信します

講演の要約

臨床現場では原因が明確にできない身体症状というものが多く存在します。倦怠感や頭痛、嘔気、そして口腔内の不快感や痛みなどがあります。これらは臨床用語では不定愁訴と呼ばれることが多く、慢性化かつ難治性でネガティブな印象を持たれがちです。これらはストレスに起因することが多くあります。人は緊張すると胃痛や腹痛を感じます。ストレスは脳辺縁系や自律神経を介してこういった身体反応を起こします。ストレスが与えられ続けると脳は可塑性の変化を起こし症状が先行して起こるようになることもあります。歯科領域では特発性歯痛や舌痛症がこれに相当しますが、原因が明確でなく難治性のため対応に難渋することもあります。今回はこういった愁訴を主体とする疾患の病態と患者対応法について講演します。